

活動記録書

開催日： 令和6年6月6日（木） 天候 晴	開催テーマ： 六浦の寺社を巡り瀬戸神社宮司の話を聞く
開催場所： 横浜市金沢区	記入者： 松崎 寛
参加人数： 会員 32名（うち ビジター1名）	
<p>実施内容（実施の項目、方法、効果・生家、宿題 など）</p> <p>コース： 京急金沢八景駅（集合）⇒ 瀬戸神社（宮司の話、ヤマアジサイの鑑賞）⇒ 金沢八景権現山公園（旧円通寺客殿見学・園内巡り）⇒ 米倉陣屋跡（墓所、笠森稲荷）⇒ 上行寺（解散）</p> <p>今回から、住職や宮司のお話と寺社巡りを組み合わせたシリーズをはじめた。第一回は瀬戸神社宮司のお話と金沢八景権現山公園、米倉陣屋跡や上行寺を巡った。</p> <p>金沢八景駅に集合。3組に分かれ横濱金澤シティガイド協会のガイドについて瀬戸神社に向かう。宮司の話のテーマは神社に残る神号額について（社務所の会議室）。「正一位大山積神宮」と記されたものが最も古い。瀬戸神社の御祭神である大山祇命（おおやまつみのみこと）。正一位は、「神階」といって神々に与えられた階位。この額は延慶4年（1311年）に書かれており執筆者は「沙弥寂尹（じゃくいん）」とある。寂尹は藤原経尹（つねまさ）の出家した法名。「三蹟」として書道の名人とされる藤原行成から十代目にあたり、書道の流儀は世尊寺流と呼ばれた。平安時代初期の空海、橘逸勢、嵯峨天皇の「三筆」、平安時代中期には小野道風、藤原佐理、藤原行成の「三蹟」は書道の達人とされる。鎌倉時代になると武家の素養として武芸とどまらず「能書」「手跡」も重視されるようになった。九代目の藤原経朝は、関東に下向し安達泰盛に書写の口伝をしている。金沢貞頭は父頭時の年忌法要の為に諷誦願文の清書を藤原経尹（すなわち寂尹）に依頼している。貞頭は六波羅探題在任中にこの神号額を、「正一位」の神階とともに、藤原経尹に依頼したのとして良いという話だった。また、本殿正面の「瀬戸神社」という額は、寛政の改革の松平定信のものを、社殿修復時に、郵政改革の小泉純一郎元総理大臣に変更したものだ。話のあと、社務所の資料室を見学。</p> <p>次に、金沢八景権現山公園に行く。ここは円通寺客殿が復元されたところ。家康が一泊して景観を気にいった場所が権現山といわれる。円通寺は東照宮がこの地に造営されたときにその別当寺になったようである。東照宮参拝後の客人の接待のために作られていたのが客殿。客人の籠をそのまま横付けできるような玄関の広さになっていたとのこと。</p> <p>続いて米倉家の墓地。米倉家は、仕えた甲斐武田氏の滅亡後、家康に旗本として仕え、その後大名となり、皆川からこの地に移ってきた。ここは最後の藩主となった米倉昌言等の墓がある。また、中世の能仁寺の跡といわれ、江戸時代に多数の白骨が出土したので、供養のため「萬霊塔」が建立されている。さらに奥の笠森稲荷も参拝する。</p> <p>最後は日蓮宗の上行寺。千葉家の家臣である富木常忍が鎌倉へ来る途中で日蓮と船中問答をかわして日蓮に帰依した。そのあと有徳人の六浦妙法が再興した。妙法は称名寺の住職と囲碁の賭けに勝って仁王尊を担いで身延山へ運んだという伝説から日荷上人と呼ばれた。日荷上人の墓とされる多宝塔がある。また、牛馬を供養する「牛馬六畜供養宝篋印塔」がある。</p>	
<p>参加者の状況・意見など：</p> <p>今回は話が一時間、歩きが一時間半と比較的楽なコースになっていた。皆さんはそれぞれ楽しんでいた様子ですので、良かったと思う。</p>	
<p>次回の予定： 令和6年7月4日（木）10時 江ノ電腰越駅集合 テーマ：腰越の路地散歩</p>	